

# ほんとうの「人づくり」とは?

岐阜県立森林文化アカデミー  
萩原・ナバ・裕作

## ●世界一素敵な学校?

### 1 教室やクラスで分けられていない。

(4歳~19歳の子が自由に過ごす)

### 2 時間割もテストもカリキュラムもない。

(やりたいこと学びたいことを自分で企画)

### 3 生徒が先生を決める。(先生を選挙で決める)

### 4 ルールは自分達で決める。(校則は自分達でつくる)

そんな学校が、今から40年前のアメリカ・マサチューセッツ州で産声をあげた。名前は、「サドベリー・バレー・スクール(Sudbury Valley School)。「世界一素敵な学校」と呼ばれるこの学校の教育哲学は高く評価され、今ではサドベリー・スクールとして世界じゅうに50校もの分校がある。

この学校では、生徒が何かを強要されることなく、自分の時間を自由に使う。だから毎日釣りをして過ごす子もいれば、10歳になっても読み書きが出来ない子もいる。ここまで聞くと大抵の親は心配するだろう。ところが、こうして徹底的に遊んだ子はやがて自発的に学びはじめ、通常の数十倍の効率で学習するそうだ。事実、15歳になるまでには全員一般的レベルに達している。それどころか、大学進学率は80%以上、そして何よりも、自分たちの人生について幸せを感じているという。人間的魅力・自己肯定感・自己実現力にすぐれたこの学校の学生を欲しがる大学や企業も多い。

## ●あなたの子どもは大丈夫?

ソニーでCDやAIBOの開発を主導し、上席常務を務めた天外伺朗氏の著書「生きる力の強い子を育てる」を知人に勧められ読んだ。小学校入学を控えた娘のいる私にとってショッキングな内容だった。子どもたちの「生きる力」は、12歳までに発達する脳の部分が活性化することで生まれるが、その発達を待たずに、ペーパーテストや一方的に教え込む授業を行うと「知識はあるが生きる力のない子どもを育ててしまう」とあった。「知識は人間形成にほとんど意味を持っていない」イギリスの教育家ニールの言葉が耳に痛い。企業トップとして多くの社員を見てきた天外氏は断言する「遊んでこなかった子は社会では殆ど役に立たない」。



遊び尽くしてから「内発的に」勉強をはじめめるサドベリー・バレー・スクールの子どもたちと、チャイムや規則、カリキュラムに従って「外発的に」勉強する子どもたち、一体どちらが自分の人生に幸せを感じるのだろうか?生きる力は「与える教育」ではなく「引き出す教育」でな

いと伸ばせない。

## ●受けとめる・見守る・ほめない・しからない

森林文化アカデミーでは、森のようちえんや、プレーパークを実施している。スタッフがいつも大切にしているのは、「受けとめる」「見守る」「ほめない」「しからない」こと。泣き虫も、おこりんぼも、みんな「そのまま」を受けとめる。そしてよほどのことがない限り、手出し口出しせず辛抱強く見守っていると、子どもたちは必ずと力を発揮する。何も教えなくても、遊びを創り、発見し、学び、思いやり、助け合い、ルールをつくり、衝突や問題も見事に解決している。

子どもたちは生きていく上で必要な能力をすべて持って生まれてくるに違いない。大切なのは、いかに教え込むかではなく、子どもたちの自ら成長する力をいかに邪魔しないように応援できるかだ。ちなみに、ほめない理由は、子どもが自分の気持ちに蓋をして、大人の期待通りにふるまう「いい子」になるのを防ぐためだ。もちろん、本当にスゴイ!と感じた時は、心の底から一緒に喜ぶ。生まれ持った力を信じれば信じるほど、子どもたちは無限の能力を発揮しどこまでも成長していく。

## ●これからの森林づくりの重要な土台

これからの森林づくりを担う人材には、「自分で考える」「問題を解決する」「行動する」「挑戦する」など様々な能力が求められるだろう。しかし残念な



ことにこれら本質的な能力は、高校生から身につけるのでは手遅れだ。幼少期から、サドベリー・スクールのような人づくりを通して「生きる力」の土台を形成しておくことが重要である。確かな土台があってはじめて森林づくりの知識や技術が真の意味で活かされるようになる。

森林文化アカデミーでは、本年度から「自然体験活動指導者・インタープリター養成コース」を開講した。自然学校、森のようちえん等の現場で、子どもたちの力を引き出すことのできる人材を養成し輩出していく。彼らに見守られて育った子どもたちが、未来の森づくりをリードしていくのも、木の成長と比べればそう遠い話ではない。その頃には、森林文化アカデミーが「日本一素敵な学校」と呼ばれていることを目標にしたい。

参考図書：天外伺朗「生きる力の強い子を育てる」飛鳥新社(2011年)  
ダニエル・グリーンバーグ「世界一素敵な学校」緑風出版(2006年)

●詳しい内容を知りたい方は

TEL(0575)35-2525 森林文化アカデミー まで